

# あなたにとって 子ども食堂は どんな場所?

社会福祉法人グロー  
「老人ホームながはま 子ども食堂」に  
集まった皆さんに聞きました。

これは夢のある事業ですね。地域の人に私たちの仕事を理解してもらいたい機会でもありました。子ども達がここに集まってくことで間接的に福祉の仕事にも興味を持ってもらい、将来福祉関係の仕事に就いてもらえればという気持ちもあります。ここは出会いの場であり出発点の場です。

上田 薫さん(57歳) 社会福祉法人グロー 法人本部 総務部長 心得

舞鶴 正吉さん(46歳) 老人ホームながはま 副所長

ここは高齢者の事業展開の場所だったので、当初は交流の場といっても成人から高齢者ぐらいがターゲットだと思いましたが、地域には子どもさんも入るのが普通ですね。子ども達の記憶の中に残って、将来の出発点になってもらうと嬉しいですね。

辻川 智江子さん(61歳) 書道の先生(ボランティア)

自宅で書道教室を開いていて、神田地区の子ども達もたくさん見えます。水曜日が練習日でその後、子ども達と一緒に車で送迎しています。現在8人来ています。ここは縁のつながりが持てる場所ですね。子どもだけでなく大人とも話せる場所になっています。それが子ども達の成長に大きく影響していくと思いますね。

安武 邦治さん(43歳) 子ども食堂プロジェクト チームのメンバー

施設の職員がリーダーシップを取るのではなく、地域の人を中心になって子どもを支えるという気持ちになっているような提案を出してくれるような、地域の事業にしていきたいですね。そして、子どもも大人もここに来れば元気になってリセットできる場所になって欲しいですね。

## いろんな世代の人たちと 関わって 共に成長できる 場所にしたいですね!

上野 康子さん(57歳) 老人ホームながはま 所長

子ども食堂の本来の目的である貧困家庭というのはこの地域ではあまりありませんが、学校に馴染めなかったり、核家族で両親が食事時に仕事で寂しい思いをしている子ども達に、ここに来たら誰かがいて、気楽に楽しく安心できる場所にしたいと思っています。

子ども学科で保育の勉強をしています。2回目の参加となりますが、子ども達とは自然に溶け込めますね。ご飯を食べながら「お母さんの帰りが遅くても楽しく過ごせる」と子ども達が話していて、温かい食事は大事だと思います。いろんな友達(人)と関わって成長できる場所ですね。

西村 康次郎さん(58歳) 老人ホームながはま 総務課長

当初は不安でしたが子ども達の方から近寄って来てくれました。ここで食事のお手伝いをした男の子が、家でもするようになったと親御さんから聞いて、嬉しく、やったことの意味を感じました。普段仕事では全く関わりのない子ども達です。そうした人の関わりが持てる、安らぎのある場所にしたいですね。

北村 健至さん(永達の18歳) 滋賀文教短期大学1年生(学生ボランティア)

今後の仕事に活かすべく、相手に分かりやすく物事を伝える、という原点の勉強をしに大学生に無い戻ってきた永達の18歳です(笑)。地域の人たちとの交流の場、プラス施設の高齢者の人たちも子ども食堂に参加されるといいと思います。誰もが自由に参加できるスペースになればいいですね。

八田 真依さん(19歳) 滋賀文教短期大学2年生(学生ボランティア)

居間はこの施設で介護の仕事をしています。子ども食堂はボランティアで食事作りを手伝っています。食材の野菜やお米は皆さん家で作っておられるので、寄付して頂き助かりますね。食事メニューは自分たちの孫に作っているのと同じ感覚ですよ。私たちは子ども食堂のおばあちゃんですね。

茂森 本枝さん(74歳・左)・辻川 喜美子さん(70歳・右) (調理ボランティア)

子ども食堂の本来の目的である貧困家庭というのはこの地域ではあまりありませんが、学校に馴染めなかったり、核家族で両親が食事時に仕事で寂しい思いをしている子ども達に、ここに来たら誰かがいて、気楽に楽しく安心できる場所にしたいと思っています。

社会福祉法人グローの「子ども食堂」

地域の人の交流スペースに!

「子ども食堂」の事業にいち早く手をあげた社会福祉法人グロー、そのきっかけは施設内に地域交流スペースがあったことです。以前から社会貢献事業をしたいという思いがあり、昨年の増改築で、元々作業棟だった場所を地域交流スペースにしようという提案がされました。「ここで地域の人とのつながりを持つと常に思っていました。なかなか事業としては思いつかなかったのですが、施設リニューアル完成の平成26年に、たまたま縁の事業も同時に立ち上げられたんです」と所長の上野さん。「子ども食堂」事業は、これまでとは全く対象が違い不安ではあったものの、施設内で思い描いていた理念に近く、施設として積極的に取り組もうと8月から始めて11月で4回目となります。リピーターの子も達も多く、学生ボランティアや施設職員、駐在さんも加わり、大家族のような楽しい夜のコミュニティスペースとなっていることから、将来は常に交流できる場所になっていくことを理想に描いています。

▲この日の夕食メニューはカレーうどんとサラダとスープ。準備のお手伝いをすると夕食代は無料!

# えにし通信

2015.12.25  
Vol.5

誰もが「おめでとう」と誕生を祝福され「ありがとう」と看取られる地域づくりマガジン

滋賀の縁創造実践センター



長浜の社会福祉法人グロー(老人ホームながはま)で開催されている「子ども食堂」に集まった皆さん。(詳しくは裏表紙参照)

何かあったらここにおいで☆  
みんなのフリースペース **子ども食堂** A B ..... P2-5  
縁を広めよう・深めようインタビュー C ..... P6-7  
私たちの人生の始まりと終わりの姿を見つめながら、  
慈愛・慈悲をもった社会づくりをしてきたい。  
社会福祉法人真盛園常務理事 地域交流センター「老いも若きも」園長  
滋賀の縁創造実践センター 代表理事 前阪 良憲さん

## CONTENTS

- \*ようこそ!うちの子ども食堂 **D** ..... P8
- \*滋賀の縁実践レポート **B** ..... P9  
「ひきこもりがちな人やその家族へ支援を届ける甲賀モデル事業」
- \*インフォメーション ..... P10
- \*滋賀の縁創造実践センターの目標・会員名簿... P11
- \*あなたにとって子ども食堂はどんな場所? **E** ... P12

今回の「えにし」は  
ここからお届け★



発行日/平成二十七年十月二十五日 〒525-1007 草津市草津7丁目8番1号 TEL:077-569-4650 FAX:077-567-5160 http://www.shgashakyo.jp/enishi

「学校に行きにくくなっている子どもや親には居場所や相談できる場所がない」との住民の方の発言がきっかけとなり、しんどさを抱えている子どもたちや保護者の居場所づくりとして、平成27年3月から「フリースペース」モデル事業が始まりました。学校やスクールソーシャルワーカー、相談員等の働きかけで子どもと家庭と地域がつながり、高齢者施設等の社会福祉施設を子どもを支える夜の居場所として活用するという、分野を越えたまさに「滋賀の縁」らしい取り組みは、県内で少しずつ広がりはじめています。今回は、その事業にいち早く取り組んでいる3つのフリースペースの管理人、子どもとかかわるワーカーの皆さんの声をお届けします！



滋賀の縁 創造実践センター事務局  
居場所づくり小委員会担当

森井 良磨

フリースペース カーサ

平成27年3月スタート  
毎週火曜17:00~21:00  
小学生4名、中学生1名、未就学児1名が参加。

フリースペース かなで

平成27年7月スタート  
毎週金曜17:00~20:00  
小学生1名、未就学児1名が参加。

フリースペース セせらぎ

平成27年9月スタート  
毎週火曜17:30~20:45  
小学生3名が参加。

まずは「今」の子どもたちに寄り添うことを大事にしたい。僕は近所のおっちゃんとして、いつまでもつながる場所であり続けたいですね

子どもの現場のことは専門外で知らないことばかりでしたが、さまざまな方にお話を伺う中で「学校に行きにくくなっている」とひとことに言っても、「学校に行きたくない」子ばかりではなく、「行きたいと思っても、家庭の事情で行けない」子もいるということを知りました。小委員会で検討を重ね、そのような思いを抱えている子どもたちが週に1回安心して来られる夕方から夜の居場所をつくらうと決めました。まずは自分の施設でやってみよう！と、3月からスタートしました。

ここは、子ども一人ひとりが週に1回、大学生のお兄ちゃんやお姉ちゃんたち「自分のためにいてくれる大人」と子どもらしく過ごすことができる場所です。初めは小中学生の子どもを対象に思っていたのですが、家に迎えに行ったときに小学生未満の子が切なそうにこちらを見ている姿を見て、学齢期未満での受け入れも開始しました。この活動は制度でやっているわけではないので、目の前の子ども

ちのために必要と思ったことをできる範囲で実践できるのがいいですね。ゆくゆくは親御さんの居場所や利用者さんとの関わり等、さまざまな展開の可能性を考えていますが、まずは「今」の子どもたちに寄り添うことを大事にしたいと思っています。

現在来ている中学生のひとりが、「私は卒業しても、毎週火曜日にはここに来る」と言ってくれました。こちらから声をかけるつもりだったんですが、先に自分から言ってくれて…感動しましたね。そうやって、「いつまで」と期間を決めるのではなく、ここは「ずっとつながれる場所」としてあり続けたいですね。

子どもたちにとって、僕はただの「いつでもいるおっちゃん」。僕も子どもたちを特別な子とは思っていないし、ひとりの近所のおっちゃんとしてシャボン玉や花火等、一見何でもない子ども時代の思い出をつくる、一緒にすごせる自然な場所であることを大切にしたいですね。

日比晴久 さん「居場所づくり」小委員会 リーダー  
(特別養護老人ホーム カーサ月の輪 施設長/社会福祉士)

フリースペースカーサ  
管理人

阪神淡路大震災がターニングポイントとなり、自動車部品の営業職から介護職に転職。「被災者が日に日に増えていく中、その近くで部品の供給に追われている状況に違和感を抱いたんです。分かりやすく人の役に立ちたいと思ったんです。転職後は仕事後帰宅すると「顔が変わったいい顔してるで」と家族に言ってもらえたことがこの仕事を続ける後押しになった。「いい最期だった」と思ってもらえることが介護職のやりがい。「固定観念にとらわれず、どんどん新しいことに挑戦していきたいですね。」

みんなのフリースペース

フリースペースカーサ

特別養護老人ホーム カーサ月の輪

フリースペースカーサの過ごし方

～子どものやりたいことに寄り添いながら～



社会福祉法人幸寿会  
特別養護老人ホーム カーサ月の輪(大津市)

17:30~ 持ってきた宿題ややりたい遊びに取り組みます！この日は施設のテラスでバドミントン！施設のなかでは風船バレーで大賑わい♪

子どもと大人1対1のかかわりが基本。その子の居場所になることを大切にしています。

18:30~ 待ちに待ったご飯の時間！施設のご飯はあつたかくて、栄養満点！見よ、これがアニメ盛りご飯！

夏はBBQ！秋はハロウィン！季節のイベントも楽しみの一つ♪

19:00~ お風呂の時間♪ほっこりする時間だからこそたくさんの会話が生まれます♪お風呂上がりは、大学生のお姉ちゃんに髪を乾かしてもらってきれいさっぱり！

19:30~ お風呂のあとのひと時♪施設で余った段ボールは、おうちづくりに活用！「こんな家に住みたいな～」と大きなおうちの完成を目指しました♪

21:00~ 「また来週～」があいことば！みんなで子どもを見送ります♪子どもが帰ったあとは、振り返りの時間。今日のできごとや気づいたことなどを振り返ります。

子どもとかかわるワーカー 瀧 梨英子 さん

日常生活の中にある喜びを子どもたちと一緒に味わいたい

子どもと楽しくが基本です。髪を洗うとか歯を磨くとかご飯を食べるとか、そうした喜びを子どもたちと一緒に味わえたらいいと思っています。その中で次第に、自分の思っていることが表現できなかった子どもたちがいるような形で表現できるようになってきました。私の役割は子どもたちに生きる力をつけていくことだと思っています。この場所は私自身も一緒に生活する場所です。栄養のある食事ができる、入浴ができる、夜のほっこり感がある、それを感じられるところ、こんな場所が今求められているのではないのでしょうか。

子どもとかかわるワーカー 辻 美帆 さん 保育士

おおらかでゆるやかに時間が流れる場所です

初めは保育園児より大きい小学生と関わることに不安もありましたが、行ってみると「フリースペース」はおおらかでゆるやかに時間が流れ、不安にとらわれず、子どもたちの好きなことを好きなようにさせてあげられる場所でした。ボランティアの学生たちがお兄さん・お姉さんの役割を担ってくれるので、私はカーサでのお母さんの立場で子どもたちと関わっています。いろいろな立場の大人が関わってつくる居場所ののびのびとしたあたたかさを感じています。



# 「何かあったときに来てもいい?」 それがすごく嬉しくて。

## フリースペース かなで

小規模多機能型居宅介護 ときのかなで 時間の奏

「地域にこの施設があってよかったと思ってもらえることって何だろう?」と考えていた時に、自分の子どもを通して学校に行きにくくなっている子どもたちが多いことを知り、何かできたらと思っていました。そんなとき、ふと手に取った「えにし通信」で「フリースペース」を知り、「これだ!」と思いました。

ときのかなで 時間の奏は、家庭的な居場所。広くはないですが、利用者さんとスタッフの距離が家族のように近いんです。そこに来てくれる子どもたちは、ひ孫のような存在で、いろんな世代と関わることでお互いの価値観が広がっていいなと思います。

夏に花火を用意したら、「初めてや〜」と子どもたちが喜んでくれたんです。そんなことから、特別ではない「普通の日常」一つひとつと一緒に経験できる場にしていきたいと思うようになりました。ここでは、こちらが「こうしてあげたら喜ぶかな」と思っている、想像を越えたことが

フリースペースかなで管理人 松川 恵さん

利用者の皆さんに「ありがとう」と声をかけてもらえることが嬉しいし、癒されます。小規模多機能の良さは、利用者さんとの距離が近いこと。多岐にわたるサービスができて楽しいです。

起こります。想定するよりもっと手前のところに課題や喜びがあるのかもしれない、と教えてもらっています。

専門職ではない分、はじめは親御さんとの距離等に不安がありました。でも、結局は1対1の人間関係なので、たとえ背景に何があっても今のかかわりに変わりはないのかな、と今では感じています。職員もさまざまな世代がいますが、いろんな世代が関わることでみんなの居心地の良い居場所になったらいいなと思います。

子どもたちは、いつも「何かあったときに来てもいい?」と聞いてくれます。それがすごく嬉しくて。家族には言いつらいことでも受け止めてくれる人がいる場所、成長したときにここをもう一つのおうちだと思って、気軽に来てくれたら嬉しいです。



利用者さんの中には、子どもの来る日を楽しみにしている方も。絵本を読む時もみんな一緒に♪



株式会社六匠 小規模多機能型居宅介護 時間の奏(大津市)

この日はバスケットに挑戦! 施設の中でも外でも遊びの可能性は無限大!



# 子どもたちが学校で見せる顔とここで見せる顔が同じになる日が来るように...

## フリースペース せせらぎ

特別養護老人ホーム せせらぎ苑

フリースペースせせらぎ管理人 生活支援室副主任 ソーシャルワーカー 増澤 典子 さん(左)  
生活相談室 ソーシャルワーカー 曾和 寛子 さん(右)



フリースペースせせらぎは、近隣の小学校の先生やスクールソーシャルワーカーから地域の子どものSOSの声が届けられたことから始まりました。お話を聞くまで、身近なところに大変な思いを抱えている子どもがいるという状況を知らなかったのが、驚き、ショックを受けました。でも、この活動で自分たちの地域の子子どもたちが喜んでくれるなら...と、9月からスタートしました。

活動のスタートにあたってフリースペースカーサの見学にも行き、自然に子どもが遊びに来ているような感覚で「お帰り」と迎える形にいい意味で驚きました。それまで来てくれる子どもとの関わりに悩んでいましたが、構えずでいたのかもかもしれません。

始まってまだ間もないですが、回数を重ねるごとに子どもたちの変化を感じています。最近ではケンカもするようになって、慣れてきてくれたかなと思うと嬉しいです。お母さんも「周りの人にとっても助けていただいている」と喜んで下さっています。

フリースペースせせらぎに来

ている子どもを通して、ご家族のことも気になりますし、何か力になりたいと思っています。核家族が増えて、子育てをひとりで抱え込みがちなお母さんが週1回でも地域のなかに子どもを安心して預けられて、ゆっくり過ごしてもらえるなら何よりです。

家庭では色々なことを抱えているかもしれませんが、来ているのは本当に普通の子子どもです。スクールソーシャルワーカーから、学校で見せる顔と私たちに見せている顔はまた違うと聞いていますが、それがいつか同じになればいいなと思っています。私たちは児童の専門ではないので、「指導する」ではなく、ざっくばらんに何でも喋れる地域のおおちゃんのかかわっています。

ここに来ることで少しずつでも気持ちが変わり、何かを感じとってくれる居場所にできたら嬉しいです。地域のなかで助け合える風土がとてもあたたかくていいと思います。



社会福祉法人甲南会 特別養護老人ホーム せせらぎ苑(甲賀市)

## フリースペースの可能性

幸重 忠孝 さん (幸重社会福祉士事務所代表/滋賀県スクールソーシャルワーカー)

### ■制度の狭間? なぜフリースペースが必要??

子どもたちは、家庭や学校、幼ければ保育園・幼稚園のなかで生活しながら大人になっていきます。そうしたなかでさまざまなアクシデントにみまわれて、しんどい思いや寂しい思いをしている子どもたちが増えていきます。これは「親が悪い、学校が悪い」ということではないんです。現代の複雑な社会のなかで子どもの居場所をつくりきれない部分があるんです。現実として滋賀県は、不登校の在籍率が高いですね。学校に行きにくくても、他にいくことができる居場所があればいいですが、子どもを受け止めることができる居場所が少ない

ことも事実です。だからといって家庭のなかだけだと、親とのかかわりのみになってしまい、人間関係の広がりが一気に少なくなってしまいます。そのような現状を受けて、子どもを支える様々な居場所が生まれていますが、夜の時間をサポートできる制度はなく、制度の限界性を感じていました。

### ■高齢者福祉施設をはじめとする社会福祉施設に子どもの居場所をつくるという発想!?

そんななか、社会福祉施設を活用した夜の居場所「フリースペース」の企画を聞いて、「なるほど!」と思いまし

た。家庭や学校、児童の施設ではない地域の社会福祉施設のなかの地域交流スペースや夕方以降のデイサービススペースが空いているという着眼点が面白いなと思いました。

実際に子どもたちが来るようになって、予想以上の良さや効果が見えてきました。そもそも施設は生活の場なので、お風呂があって、ご飯があって、必ず人が常駐しているという強みはもちろん、送迎の手段をもっていることも大きいですね。お年寄りの方と子どものかかわりもあって、決して喋らなくても、その場を共有することのすごさを感じています。子どもも施設の利用者の方も、その日を楽しみに待っていて、子どもがいるだけで元気になったり、力になれることもあります。1+1が2じゃなくて、3、4となっていると感じます。

色々な事情を抱えている子どもたちに、「かわいそう」だから光を当てようじゃないんです。子どもたちはみんなすごい力をもっていて、輝いているんです。

### ■フリースペースの可能性

福祉の課題として、担い手不足はどこも課題になっていますよね。子どもたちがフリースペースのなかでかかわる大人の姿をみて「福祉の仕事に就きたい」と思ってくれると嬉しい。また、親子でフリースペースに来るなかで、仕事をしようと思った時に、「いつも行っている場所で働きたい」と就労の入口になる等、フリースペースはいろいろな可能性をもっていると思います。





私たちの人生の始まりと  
終わりの姿を見つめながら、  
慈愛・慈悲をもった社会づくりをしてきたい。

社会福祉法人真盛園常務理事 地域交流センター「老いも若きも」園長  
滋賀の縁創造実践センター 代表理事

前阪 良憲 さん

平成26年9月の設立から1年を迎えた「滋賀の縁創造実践センター」。設立にさきがけて、10年前に立ち上げられた地域交流センター「老いも若きも」は滋賀の縁認証第1号の認証事業となりました。誰もが気軽に立ち寄れる地域の居場所づくりを通して「おめでとうからありがとうまで」を実践し、その精神を広げようと縁センター設立に取り組んでこられた前阪良憲さんに、縁センターへの思いについてお伺いしました。

### 社会福祉法人としての地域貢献のあり方を さぐる中から生まれた「老いも若きも」

**谷口** 今年、真盛園地域交流センター「老いも若きも」が創立10周年を迎えられました。母体となる真盛園は64年の歴史があるそうですね。

**前阪** 戦後まもない昭和22年に新制中学校が開校しました。当時公立中学校は小学校に併設されていたのですが、坂本中学校は人数が多いため併設できませんでした。そこで、ちょうど廃校になった西教寺の専門学寮の校舎を、坂本村の村長さんが貸して下さいと言われてこられて、そこで坂本中学校が開校したんです。その後昭和26年に坂本村が大津市と合併し、坂本中学校が日吉中学校となって移転したので、空いた所に大津市が生活困窮者のための「大津市立真盛養老院」を創ったんです。それが昭和31年に総本山西教寺が法人設立、社会福祉法人真盛園になった、という歴史があります。

**谷口** 地域の歴史とともに歩んでこられたんですね。「老いも若きも」はどのような経緯で始まったのですか？

**前阪** きっかけは、平成12年に始まった介護保険制度で様々な研修を受ける中で「社会福祉法人も地域貢献をするべきだ」という話が出てきたことでした。真盛園は創立から64年の中で果たしてどれだけ地域に根づいて、社会に還元できていただろうかと考えるようになりました。そんな折り、平成16年に当時知事だった國松さんとお話する機会があり、「何かいい考えはないですか？」とお聞きしたところ、知事

として進めている「あったかホーム事業」をぜひやってくれないか、というアイデアをいただきました。

ちょうどその頃、私が住職をしている西教寺塔頭聞證房の檀家さんに築80年の空き家をどうしようかという相談を受けていました。それで、歴史のある家だから潰さないで、私に任せておいてくださいと引き受けて、職員で勉強会を積み重ね、地域貢献として交流センターを理事会に図りました。そして平成17年1月に、この古民家をベースに「真盛園地域交流センター 老いも若きも」を立ち上げたんです。

### 家庭的な雰囲気大切に、 誰もが自由に出入りできる居場所づくりを

**谷口** 「老いも若きも」という名前も絶妙ですね。この場所のもつ温かさをピタッと言い表す言葉をよく考えられましたね。

**前阪** 「誰もが自由に出入りできる場所」ということが伝わる名前にしたいと思いました。真盛園という施設はある意味「箱物」で、規則の中で運営されています。でも、利用者さんにはやはり、家庭的な雰囲気を味わってほしいという思いがありました。それで真盛園の利用者さんの逆デイサービスも考えました。地域の誰もが気軽に来られる居場所にしたかったんです。

例えばお風呂にしても、最近は公衆浴場が減ってきました。独居の高齢者にとって、家で一人でお風呂に入るのは心細くて大変なものです。そこで、地域の高齢者にも

施設の風呂を利用してもらえるようにしました。ここなら職員が常駐しているので、安心して風呂にも入ってもらえますからね。

また、二世帯同居している高齢者でも、子ども世代は外へ働きに出ているので、80歳、90歳の人が家に一人であることとなります。そんな高齢者が「老いも若きも」へ来れば、誰かが一緒にいて食事できるので家族も安心して働きに行けます。それは学校に通うお子さんがおられる保護者でも同じです。

**谷口** ここが「みんなの場所」として心地よい場所になるようにと「おむすびネット」という地域の中の教育や福祉、医療関係者のネットワークも作っておられるそうですね。

**前阪** 坂本ふれあいセンターを拠点とする「おむすびネットひえい」に参加しています。この会は、坂本地域中心に近隣の雄琴から唐崎までの5学区の福祉、教育関係専門職の異業種の情報交換と地域での横断的連携を目的とし、お互いの仕事を理解し、専門職員同士がつながり、住んでいる人があたたかい気持ちで安心して暮らせる地域となるようネットワークを広げています。定期的に開催することで、職員同士の関係も築き、地域で暮らす様々な方の困りごとなどに、速やかに対応ができるようにしています。

**谷口** そんな中で、今度は「子ども食堂」への取り組みもスタートされます。何かきっかけがあったのでしょうか。

**前阪** 子どもは学校があるときは給食があるので食事ができますが、夏休みや春休みになると、ここへ来て「僕、まだ何も食べてないや」という子どももいます。それだったら、そんな子どもたちが家庭的な雰囲気の中で食事ができるよう「子ども食堂」をやらないといけな、と思ったんです。

昔は家庭におじいさん、おばあさん、お父さん、お母さんがいて食事食べていました。今は核家族化でそういう雰囲気が希薄になってしまいましたが、もう一度これを見直さないと、日本の家庭は大変なことになると危惧しています。そんな思いもあって手を挙げたんです。この冬休みに実施します。学校の先生にも話して、家庭的な雰囲気が必要な子どもをぜひ連れてきてください、とお願いしています。

### 福祉の仕事を通して喜びを与えられる 人と場所を育て、広げてきたい

**谷口** 滋賀の縁創造実践センターは設立から1年と4か月になりましたが、人の暮らしの支援に携わる人たちが助け合うことが、本当に困っている人を助ける力になるということを実感する日々です。参画を呼びかける時に、前阪会長が老人福祉施設協議会の中で、みんなで行き



▲坂本の歴史ある町並みに溶け込む、築80年の古民家を活用して開設された地域交流センター「老いも若きも」

でいこうとってくださったことが、大きな後押しになりました。縁は「おめでとうからありがとうまで」を趣旨としていますが、この考え方は「老いも若きも」とつながりますね。

**前阪** 「老いも若きも」の背後にあるのは報恩感謝を忘れてはいけな、ということなんです。これが私たちの人生の始まりであり、終わりであるということに置いておいてほしいです。

悲しいかな、今の80歳代、90歳代の方は戦後一生懸命働く中で年金制度ができ、年金生活を送れるようになったのですが、その子ども世代の50歳代、60歳代の人の中には、親の年金を自分たちで使ってしまった親に食事代も与えない、いわゆる「経済的虐待」という問題も出てきています。このような悲しいことをなくすためにも「おめでとうからありがとうまで」を大事にしてほしいですね。

**谷口** 生きていてよかったと思えることが、どれほど大切なことかと思えます。小さな子どもであっても高齢者であっても、生きていてよかったと思える社会に私たちは生きてほしいですね。

**前阪** 私は、「人はみな高齢者になる、そうすると介護も必要になるし、寝たきり、認知症になって話せなくなることもある。その姿を人に見せるのは恥だ、と言葉ははいけな」と職員には話しています。人間の一生のうちのこの時期の姿はこうだ、ということをもっとオープンにして、慈愛、慈悲をもった社会づくりをしてきたい。

福祉というのは、幸せであり喜びです。その精神を忘れてはいけません。職員は今までは困った人を助ける仕事だ、という観念ではたらいっていたと思いますが、これからは、福祉の仕事を通して喜びを与える、そういう人に育ってほしいですね。

**谷口** そうですね。お話しくださった「老いも若きも」はきっとどのような地域でも求められる場所です。これからもっと広がっていき、みんなが広がっていき、みんなで広げていってくださるよう願っています。

今日はどうもありがとうございました。



# 滋賀の縁 実践 レポート

# 自分らしく生きていくことを応援したい。 ～ひきこもりがちな人やその家族へ支援を届ける～ 「甲賀モデル事業」

「ひきこもり」といっても、その状態になる要因はさまざま、精神疾患が影響している場合もあれば、取り立てて要因といえるものが見つからない場合もあります。また、その本人から相談があることは少なく、まわりが気づいていても、具体的な支援が見つからないこともあります。「ひきこもり等の支援」小委員会では、昨年度から県内の各保健所や県ひきこもり支援センターにヒアリングを行い、県内にある社会資源を整理しながら、具体的な取り組みに向けて検討を重ねてきました。

「外に出るのが怖い」、「周囲は心配するけど今は自宅にいる方がいい」「一人でもできる楽しみがないかなあ」と一人で悩んでいる人、また、すでに相談機関につながっている人や、悩んでいる家族にも、安心できる「居場所」を求めている人たちがたくさんいます。

9月から動き出した甲賀モデル事業では、縁センターの法人会員である社会福祉法人さわらび福祉会が主体となって、人とのつながりをもちづらい方や、ひきこもりがちな暮らしをしている方、その家族に、「**現行の福祉サービスでは届けられない支援を届ける**」ことをめざし、地域の支援関係者（保健所、行政、社協、相談支援事業所、民生委員児童委員など）とともに、取り組みをすすめています。



甲賀モデル事業とさわらび福祉会  
「スポットライフくれぱす」  
開所式・記念シンポジウム

▲10月10日（土）、サンヒルズ甲西にて開催しました。県や甲賀圏域を中心とした支援関係者だけでなく、当事者やご家族にも多数ご参加いただきました。

## アウトリーチ（訪問型支援）

ひきこもりがちな生活をしている方や社会とのつながりがもちづらい人へ、もう一度、人との縁を紡ぎなおし、その人らしく地域で暮らすことをめざします。定期訪問や同行支援により、人との関係づくりからはじめ、また特定のひととの関係づくりから、サロンなど他の活動にふれることをすすめていきます。

## 家族交流・学習会

家族同士の交流の機会や、県内外の実践等を学び合う機会をつくりたい。当事者家族としての立場だけではなく、ご家族自身も「私」でいられる場づくりを考えます。

## 居場所づくり（サロン）

もう一度人とかかわりをはじめる場、自分のペースで過ごせる場、「楽しい」「わくわく」が待っている場…。そんなふうに、安心できるサロンにします。（10月17日（土）から、毎週土曜日に開催しています）

## 地域啓発活動

福祉関係者だけでなく、市民の方に関心を持ってもらえるよう、学び合い、縁を結んでいける交流・学習会に取り組みます。また、活動をすすめながら、ピアサポート（当事者同士の支え合い活動）もすすめていきます。

## スポットライフ くれぱす

今年9月に開所した、さわらび福祉会が運営する生活訓練事業所です。住宅街の中にある一軒家で、障害者総合支援法に基づく自立訓練（生活訓練）事業（通所型・訪問型）を行います。縁センターのサロンは、くれぱすの一室を使っています。



## 甲賀モデル事業運営会議

甲賀保健所、甲賀市社協、湖南市社協、甲賀市民児協、湖南市民児協、甲賀市生活支援課、甲賀市障がい福祉課、湖南市住民生活相談室、湖南市社会福祉課、縁センター事務局、さわらび福祉会

※順不同、12月1日現在

## アセスメント会議

### アウトリーチ 部会

さわらび福祉会  
保健所

### サロン部会

さわらび福祉会  
甲賀市社協  
湖南市社協  
縁センター事務局

### 家族支援 交流部会

さわらび福祉会  
保健所

### 地域啓発 交流部会

甲賀・湖南市  
民生委員代表  
甲賀市・湖南市

※部会メンバーはあくまで中心メンバー。必要に応じてひろげ、小委員会や他の関係機関、県ひきこもり支援センターとも連携をはかる

情報共有 つなげる

## 連載第1回

# ようこそ！うちの子ども食堂

# 子ども食堂平野学区のぞみに お邪魔しました☆

今号から、毎回どこかの「遊べる・学べる淡海子ども食堂」にお邪魔して様子をお伝えします。今回は、平野学区母子福祉のぞみ会主催の「子ども食堂平野学区のぞみ」にお邪魔しました。

月1回、平野市民センター（大津市）に子どもたちのにぎやかな声が響きます。平野学区母子福祉のぞみ会が主催する「子ども食堂平野学区のぞみ」には、ひとり親家庭を中心に地域の親子が集まり、皆で夕方のひとときをともに過ごします。

「今日の晩御飯のメニューは何？」毎月変わるこだわりのメニューに、子どもたちはいつもわくわく。調理実習形式で、一緒につくるごはんの味は格別です。

みんなでご飯をつくりまします。「固いものを切るのが楽しいな〜」



帰りの会では、来月のメニューを相談したあと、お世話になった大人の皆さんにごあいさつ。

## あたたかな地域に包まれて、私もここまでやって来ました。 子ども食堂はお返しの間です。

平野学区は、代々受け継がれたあたたかい人の輪ができていく地域です。私もひとり親になって37年、2人の子どもを育てる中で地域やのぞみ会の皆さんにはとても助けていただき、まさに地域とともに歩ませていただきました。子どもも巣立った今、今までのつながりを活かして何かお返しができたらと思って子ども食堂をはじめました。

これまでに7回開催し、少しずつ広まってきました。「今日はしんどいから行きたくない〜」と言っていた子にも「無理においでとは言わないけど、みんなの顔を見たら元気が出るかもよ」と声をかけたら来てくれて、

来たらかロツと元気いっぱい遊んでいました。そんな姿を見るのが嬉しいんです。居場所の持つ力ってすごいですね。「つくろう」としてできるものでなく、そこにみんなが集まることで自然にできる空気のあたたかさを感じています。

ここなら50人ぐらいは入れるし（笑）、どんどん新しいことにも挑戦して、みんなにとって居心地のいい食堂にしていきたいですね。

平野学区母子福祉のぞみ会  
会長 梶村康子さん  
そろばん教室の先生としても  
大活躍中☆



食堂スタッフとそのご家族の皆さん。  
笑い声が絶えない、太陽のような食堂です☆

- 夏休み中は月2回、その後は月1回の開催
- 会場：平野市民センター
- 大津市母子福祉のぞみ会主催（市社協共催）
- ひとり親家庭の子どもを中心に誘い掛け
- 子ども15名、ボランティア5名
- 参加費無料 ●調理実習方式

## 縁センターから県への 施策提案を行いました

縁センター設立から1年が過ぎ、子ども・若者の孤立・貧困の問題をはじめ、制度のはざまとなっている課題に対し、会員の皆様のお力でモデル事業が動き出しました。この気づきと実践を県の施策につなげるべく、来年度に向けての県の政策課題に関して子ども・若者の課題に焦点をあてた提案をまとめました。

去る9月8日(火)には、本提案書をもとに滋賀県知事と本センター正副代表理事および各小委員会プロジェクトリーダーとの意見交換会を開催し、考え方、方向性の共有化を図ったところです。今後は、懇談を重ねながら、具体的な協議を進めていく予定です。

縁センターの活動をとおし、福祉の滋賀モデルといわれる公私協働を確実に作っていききたいと思います。

施策提案の内容は、HPからご覧いただけます。



▲9月8日(火)の意見交換会にて

## 今年度も引き続き 会員募集中です!

本会の設立趣旨に賛同し、主体的に活動しようと思っ  
てくださる仲間を随時募集しています。規程や申込み等詳  
細については、下記ホームページよりご覧いただけます。  
ご参画、お待ちしております!

### お問い合わせ先はこちら

#### 滋賀の縁創造実践センター事務局

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138

社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会内

TEL 077-569-4650 FAX 077-567-5160

enishi@shigashakyo.jp

【ホームページ】<http://www.shiga-enishi.jp>

【Facebook】<https://www.facebook.com/shiganoenishi>

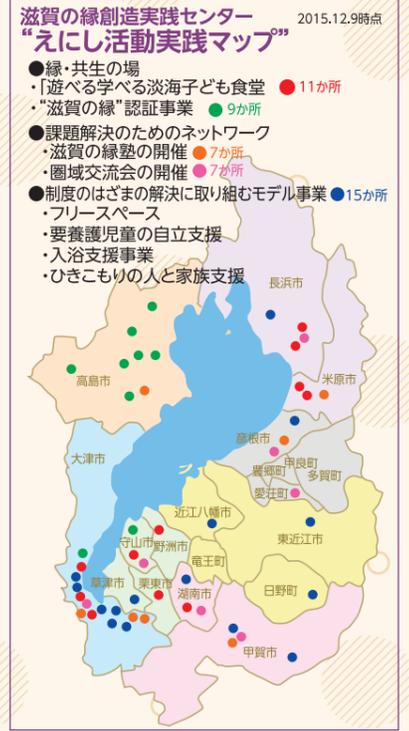
### 編集 後記

「なんでじゃがいもの【じゃ】は大きい字と小さい字があるん?」保育園で息子の友だちに聞かれ、とっさに言葉につまりました。一瞬いろいろな考えが回った後、「そうだね、なんでだろう?」と聞き返してみましたが、なんだかうやむやと終わってしまいました。私にとって子どもと関わる時間は、「そうきたか!」と忘れていた感覚を呼び起こしてくれるようで発見の連続です。今号では子どもの現場にたくさん参加させていただきましたが、どこもキラキラした力に満ち溢れていました。このおもしろさは癖になりそうです。(F)

## 滋賀の縁創造実践センター5年間の目標

だれもが「おめでとう」と誕生を祝福され、「ありがとう」と看取られる地域づくり

- 地域に縁・共生の場をつくる⇒300か所(概ね小学校区に1つ)**  
だれでも気兼ねなく寄れる場で、見守りネットワークの拠点として支援者同士がつながれる場、SOSがつながる場を“これぞ縁”として、地域のなかに「縁」の志と実践をひろげていきます。  
【リーディングプロジェクト】(1)「遊べる・学べる淡海子ども食堂」(2)“滋賀の縁”認証事業
- 課題解決のためのネットワークをつくる⇒15か所(概ね福祉事務所単位)**  
一人ひとりを、家族を、トータルにサポートするために、分野横断で支援者がつながり、解決のために協力して動けるネットワークをつくります。
- 制度の対象とならず、支援が届かない課題の解決に取り組む⇒15のモデル事業**  
深刻な問題であるのに制度の対象とならず、支援がうまく届かない問題があります。支援者が現場で困難を感じている課題をもとにモデル事業を組み立て、実施し、制度の拡充や施策の創設を目指します。
- 国や県、市町への施策提案に取り組む⇒20の提案**  
モデル事業や会員の現場での実践にもとづいた施策充実への提案に取り組みます。
- 縁・支えあいを県民運動にしていく⇒新たに福祉のボランティア体験をする人を1万人つくる**  
つながりと助け合いが豊かに育まれる滋賀ならではの県民性。そんな滋賀づくりとして、市町ボランティアセンターと会員施設が協力して福祉ボランティア体験の場をつくります。



## 滋賀の縁創造実践センター 会員名簿

(平成27年12月10日現在)

### 参加団体会員名簿

一般財団法人 滋賀県民間社会福祉事業職員共済会・一般財団法人 滋賀県老人クラブ連合会・一般社団法人 滋賀県介護福祉士会  
一般社団法人 滋賀県保育協議会・公益財団法人 滋賀県身体障害者福祉協会・公益社団法人 滋賀県社会福祉士会  
公益社団法人 滋賀県手をつなぐ育成会・滋賀県介護サービス事業者協議会連合会・滋賀県介護支援専門員連絡協議会  
滋賀県里親連合会・滋賀県児童福祉入所施設協議会・滋賀県社会福祉法人経営者協議会・滋賀県障害者自立支援協議会  
滋賀県民生委員児童委員協議会連合会・滋賀県老人福祉施設協議会・滋賀県市町村社会福祉協議会会長会  
社会福祉法人 滋賀県視覚障害者福祉協会・社会福祉法人 滋賀県母子福祉のぞみ会・医療福祉 在宅看取りの地域創造会議

### 参加法人会員名簿

※本名簿は、法人事務局の所在地で掲載しています。

**<大津>** (福)青桐会、(福)穴太福祉会、(福)近江会、(福)近江笑生会、(福)近江神宮仁愛会、(福)大石福祉会、(福)大津市社会福祉協議会、(福)大津市社会福祉事業団、(福)大津ひかり福祉会、(福)おおみ福祉会、(福)恩徳寺会、(福)華頂会、(福)唐崎福祉会、(福)唐橋福祉会、(福)共生シンフォニー、(福)桐生会、(福)幸寿会、(福)湖青福祉会、(福)小鳩会、(福)滋賀同仁会、(福)志賀福祉会、(福)春風会、(福)真盛園、(福)石光山会、(福)禅心福祉会、(福)せんだん二葉会、(福)つばさ会、(福)琵琶湖愛輪会、(福)美輪湖の家大津、(福)まほろば、(福)楽樹  
**<湖南>** NPO法人ものわすれカフェの仲間たち、(福)永山会、(福)恩賜財団済生会、(福)湖南会、(福)彩陽会、(福)しあわせ会、(福)慈恵会、(福)志津保育園、(福)すずのこ保育園、(福)聖優会、(福)パレット・ミル、(福)ひかり会、(福)びわこ学園、(福)みのり、(福)守山市社会福祉協議会、(福)モンチ優愛会、(福)野洲慈恵会、(福)野洲市社会福祉協議会、(福)よつば会、(福)栗東市社会福祉協議会、(福)良友会  
**<甲賀>** (福)愛心会、(福)あいの土山福祉会、(福)近江ちいろば会、(福)近江和順会、(福)大木会、(福)おさなご会、(福)甲賀会、(福)甲賀学園、(福)甲賀市社会福祉協議会、(福)甲南会、(福)湖南市社会福祉協議会、(福)さわらび福祉会、(福)しがらき会、(福)信楽福祉会、(福)天地会、(福)八起会、(福)ひまわり会、特定非営利活動法人NPOワイワイあぼしクラブ  
**<東近江>** (学)滋賀学園、(福)阿育会、(福)育新会、(福)一善会、(福)近江兄弟社地塩会、(福)近江八幡市社会福祉協議会、(福)グロー、(福)恵泉会、(福)湖東会、(福)サルビア会、(福)慈照会、(福)至徳会、(福)真寿会、(福)布引会、(福)万松会、(福)東近江市社会福祉協議会、(福)日野町社会福祉協議会、(福)日野友愛会、(福)ほのぼの会、(福)めぐみ会、(福)雪野会、(福)竜王町社会福祉協議会、(福)六心会  
**<湖東>** (福)愛荘町社会福祉協議会、(福)あすなろ福祉会、(福)近江ふるさと会、(福)甲良町社会福祉協議会、(福)ことぶき会、(福)さざなみ会、(福)さざなみ学園、(福)椎の実会、(福)慈水会、(福)白露会、(福)大樹会、(福)多賀町社会福祉協議会、(福)稲朋会、(福)豊郷町社会福祉協議会、(福)彦根市社会福祉協議会、(福)みづほ会、(福)三つ和会、(福)若葉会  
**<湖北>** (福)愛悠ももの会、(福)柏葉会、(福)カトリック京都司教区 カリタス会、(福)公悠会、(福)湖北真幸会、(福)湖北報恩会、(福)青祥会、(福)尊徳会、(福)達真会、(福)長浜市社会福祉協議会、(福)米原市社会福祉協議会、(福)まんてん  
**<高島>** (福)近江愛隣会、(福)光養会、(福)新旭みのり会、(福)たかしま会、(福)高島市社会福祉協議会、(福)虹の会、(福)ゆたか会  
**<県域>** (福)滋賀県社会福祉協議会

**【個人会員】** 上野谷 加代子、山辺 朗子、上西 祥之、廣田 敬史、大谷 雅代、宮本 育子、前阪 良憲、疋田 由香里、松田 弘、牛丸 昇子、上村 文子、尾畑 聡英、西野 浩美、北居 理恵

**【賛助会員】** 元三フード株式会社、総本山 西教寺、株式会社なんてん共働サービス、大津市仏教会、滋賀県仏教会、一般社団法人きれいや総研滋賀中央センター

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

# ボランティア活動保険

平成27年度

全国200万人加入!!

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

(※)天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

### 年間保険料

タイプ	プラン	Aプラン	Bプラン
基本タイプ		300円	450円
天災タイプ(※)		430円	650円

### 保険金をお支払いする主な例



### 補償金額(保険金額)

保険金の種類	プラン		
	Aプラン	Bプラン	
死亡保険金	1,200万円	1,800万円	
後遺障害保険金	1,200万円(限度額)	1,800万円(限度額)	
入院保険金日額	6,500円	10,000円	
ケガの補償 手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
通院保険金日額	4,000円	6,000円	
特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円(限度額)		
賠償責任の補償 賠償責任保険金(対人・対物共通)	Aプラン	Bプラン	
	5億円(限度額)	5億円(限度額)	

### ボランティア行事用保険

(普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約傷害保険、賠償責任保険)

### 送迎サービス補償

(普通傷害保険)

### 福祉サービス総合補償

(普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**  
(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社  
TEL: 03(3593)6824

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。